

平成 18 年 6 月 21 日

武庫川流域委員会 委員長 松本 誠 殿

「武庫川ダム案環境への影響検討」への意見書（その 2）

委員 村岡浩爾

「試験湛水」に関する質問をします。先の意見書と合わせて内容をご判断ください。

- (1) 湛水期間を短くする方向で検討されているということであるが、どのような方法でそれが実現できると考えているのか。
- (2) 湛水期間を短くすると、自然環境への影響は少なくなるが、急激な水位変化は別の障害をもたらす。その安全性のチェックが必要である。仮に、湛水試験における湛水後の水位低下速度が「1 日 1 m」とすると、代表地点の流速（平均流速）はどの程度になるか。また、そのときの表層の岸辺付近での値はどうなるか。
また、共用後を想定し、16 年型降雨の 1 / 100 のハイドログラフによる湛水があって、その水位低下時の流速（平均流速および岸辺付近の流速）についても示すこと。
- (3) 岸辺付近の流速を V_0 とすると、 V_0 に対する掃流力（あるいは摩擦速度）はどれくらいとなるか。またその値によって、どのような斜面等の土砂の崩壊、洗堀、植生の流亡が起ると予想しているか。
- (4) V_0 に対する掃流力の大きさを評価する方法として、もしこの掃流力が河床で生じたらどのくらいの粒径の土砂が動くかを検討してほしい。（土砂の限界掃流力の観点から）
- (5) 試験湛水において、水面上昇時、水面低下時に斜面への水の浸透機構、保水状態についてどのような調査や計測を行うのか。特に水面低下時は、斜面の土壌や岩石に残留水分が生ずるので、その水分挙動が斜面の剥離、崩壊の原因になることが予想される。したがって、その危険性もしくは安全の確保のために、どのような調査をするのかは重要なことである。
- (6) これに関連して、水面の低下速度と水分挙動とはどんな関係になるのか。

以 上